

連携協力の背景・目的

- CBTには多くのメリットが期待され、既に導入している大学がある一方で、受験環境の確保、トラブルへの対応体制の構築、社会の理解など、紙のテストとは異なる細やかな検討事項があり、これらを一つの大学等のみで解決し、実現していくのは難しい。
 - ➔ 既に導入している大学と大学入試センターによる以下のような連携協力を通じて、CBTの活用を更に推進し、ひいてはCBTという新しい試験の在り方に対する社会全体の理解の促進への寄与を目指す。

大学入学者選抜をCBTで実施する大学の共通課題

作題 紙のテスト以上に、問題の作成・点検に労力がかかる。

当日 試験の進行手順やトラブル対応方法を理解した試験監督者の研修に手間がかかる。

準備 受験者端末の保守・管理や、設定の確認、外部接続機器の管理などに労力がかかる。

CBTシステム システムの保守・管理やバージョンアップ対応に苦慮している。

連携協力事項

(1) CBTの実施に係る知見の共有や負担軽減



新しくCBTに挑戦したい大学向けの
ガイドライン整備

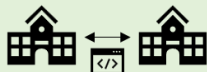
- CBT導入時の検討事項リスト
- 課題解決事例集 など



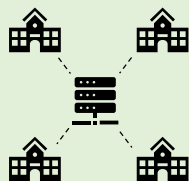
標準マニュアルの作成

- 問題作成関連マニュアル
- 試験実施関連マニュアル など

(2) CBTの活用可能性の拡大



試験問題の共有・流通に向けた
ルール作りや工程表の作成



複数の大学による
問題バンクの構築に向けた
計画の立案

(3) CBTに対する社会全体の理解の促進



国際技術標準に準拠した
CBTシステムの体験機会の提供



CBT先行事例のわかりやすい発信



シンポジウムや研修などの開催

2024年夏頃

2027年3月

(1) CBTの実施に係る 知見の共有や 負担軽減

- ・連携大学がCBTを導入したときの懸案事項や直面した課題を整理



CBT導入時の検討事項リスト
課題解決事例集 など

- ・連携大学のCBT関連マニュアルの特徴や共通点・相違点を分析



問題作成マニュアル、
試験環境準備マニュアル など
必要なものについて、フィージビリティ調査を実施

試験実施マニュアル、
試験監督者マニュアル など
必要なものについて、フィージビリティ調査を実施

(2) CBTの活用可能性の 拡大

- ・試験問題の共有・流通に向けたルールや次期活動の工程表について検討



CBT用試験問題の共有・流通に関するルール[案]
試験問題の共有・流通を促す次期活動の工程表

- ・問題バンク型CBTを活用した入学者選抜イメージの具体化



問題バンク型CBTを活用した入学者選抜のイメージ

(3) CBTに対する社会全 体の理解の促進

- ・キックオフシンポジウムの開催
活動目的や具体的な活動内容を
広く周知

- ・シンポジウムの開催
活動の進捗状況を周知

- ・シンポジウムの開催
活動の進捗状況を周知

- ・国際技術標準準拠のCBTシステムに
共通テストの過去問などを搭載



- ・締結機関への体験機会の
提供・課題洗い出し



- ・他大学の入試担当者等への
体験機会の提供・課題の洗い出し